平成 27 年度 津市新最終処分場等施設整備に係る環境影響評価 事後調査

報告書(要約書)

平成 28 年 3 月

津市

目 次

事後調査の目的および項目等	1
騒 音	2
水 質	3
地下水	
猛禽類(鳥類)	5
両生類	6
維管束植物	
調査地点図	8

事後調査の目的および項目等

○事後調査の目的

津市新最終処分場等施設建設事業では、「津市新最終処分場等施設整備に係る環境影響評価書 (平成25年3月)」(以下「評価書」という)に示した事後調査計画に基づき、工事中及び施設供 用後に事後調査を行うこととしています。

本報告書は平成27年度に実施した工事中の事後調査の結果をとりまとめたものです。

○事業者の名称など

事業者の名称 : 津 市

事業者の所在地: 三重県津市西丸之内23番1号

代表者の氏名 : 津市長 前葉 泰幸

対象事業の名称: 津市新最終処分場等施設整備事業(以下、「本事業」という)

〇事後調査項目

事後調査は平成25年度から供用終了(平成42年度)まで実施します。工事状況や施設稼働状況の変化とともに周辺環境へ影響を及ぼす要因(影響要因)も変化するため、年度ごとに調査項目を変えながら実施する計画としています。今年度(平成27年度)の調査項目は下表に示すとおりです。

なお、下表の調査項目のうち、陸生動物、陸生植物等については学識者の指導を得て調査を実施し、調査結果及び保全措置の評価を行いました。

表. 事後調査項目【平成27年度】

調	查項目		主な影響要因	
騒音		工事の実施	工事用車両	
→ √ / / /	北所 (地下水の水所吟/)		コンクリート打設工事・地盤改良	
水質(地下水の水質除く)		工事の実施	土地の造成・工事用道路等の建設	
## \\ \p\ \O -	地下水の水質及び水位		工事の実施	
地下小0//			濁水・アルカリ排水	
7 + + + + + + + + + + + + + + + + + + +	猛禽類(鳥類)	工事の実施	工事の実施	
陸生動物	両生類	工事の実施	土地の造成・工事用道路等の建設	
陸生植物等	維管束植物	工事の実施	土地の造成・工事用道路等の建設	

工事車両の走行による騒音影響

〇調査項目

- ・道路交通騒音(騒音レベル)
- 交通量

〇調査時期·頻度

調査は工事用車両台数が最大となる時期に1回行いました。

・平成28年6月1~2日(24時間連続観測)

〇調査地点

・工事関連車両の通行経路の7地点



〇調査結果

騒音調査結果は、全調査地点において昼間及び夜間の環境基準を下回っていました。

騒音レベルと交通量の変動は概ね一致しており、各調査地点を通過する全車両に占める事業関連車両の割合は、3.2%~47.8%程度でした。

図. 騒音レベルと交通量の変動(下之川地区①)

	表. 調査結果			単位:dB
	調査地点	時間	騒音レベル	環境
	胸重地点	区分	$(L_{ ext{Aeq}})$	基準
	1. 竹原地区①	昼間	65.4	70
		夜間	56. 3	65
, ,	2. 竹原地区②	昼間	60.7	70
Ì		夜間	48.3	65
ĺ	3. 美杉消防団第 7	昼間	59. 3	70
!	分団第3格納庫	夜間	44. 7	65
,	4. 下之川診療所	昼間	59. 1	70
		夜間	43.7	65
	5. 下多気地区	昼間	59. 4	70
		夜間	42.7	65
	6. 多気診療所	昼間	59. 9	70
		夜間	47.7	65
	7. 下之川地区①	昼間	58.5	70
		夜間	44.9	65

○事後調査の結果の検討

今年度は最終処分場建設工事(第1期)を実施しており、工事用車両としては資材の運搬にダンプトラックやコンクリートミキサー車などの大型車両を用いています。工事用車両走行による騒音の環境保全措置としては、安全かつ丁寧な運転実施などといった運行方法の指導を行うことにより、騒音の発生を可能な限り抑制しています。本調査では、全調査地点とも騒音レベルが環境基準を下回っていることが確認されました。

このため、現状では本事業が周辺環境へ著しい影響を及ぼしている可能性は低いものと考えられますが、今後も工事用車両の走行による騒音影響について監視していくこととします。

水 質

〇調査対象

- ①コンクリート打設工事及び地盤改良によるアルカリ排水の影響
- ②土地の造成及び工事用道路等の建設に伴う濁水の影響

〇調査項目

- p H
- ・浮遊物質量(SS) など



〇調査時期 • 頻度

調査は平成27年4月~平成28年3月までの期間に毎月1回行いました。

〇調査地点

・対象事業実施区域内及びその周辺の6地点

〇調査結果

水のアルカリ度を示す pH については、測定値の異常な上昇はみられず、工事前の水質と同程度で推移していることが確認されました。一方、水の濁りの指標となる水中の浮遊物質量(SS)については、梅雨時期、台風時期の降雨による影響により、一部の地点で SS 値の上昇が確認されました。しかし、高い値は一時的なものであり、他の時期はすべて環境基準を下回る状況であることが確認されました。

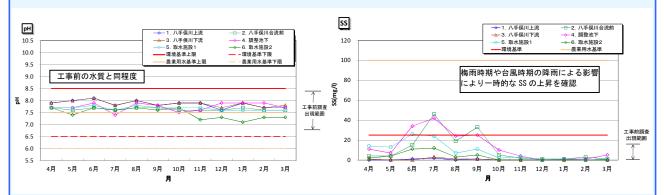


図. 水質経時変動【 pH 】

図. 水質経時変動【 SS 】

○事後調査の結果の検討

本事業ではコンクリート打設や地盤改良に伴うpH上昇の低減のため、アルカリ性排水の適切な 処理を行いpHの上昇を抑制しています。本調査の結果、pHの異常な上昇はみられませんでした。

また、場内からの濁水発生の抑制及び濁水濃度低下のため、仮設沈砂池を設置し、濁水による 影響を低減しています。本調査では梅雨時期や台風時期の降雨の影響により、一部の地点で SS 値 の上昇がみられましたが、他の時期には平常値に戻っていることが確認されました。

以上のように、一時的にSS値の上昇がみられたものの、その後は平常値に戻っていることから、 概ね環境保全措置は適切に実施されており、事業実施によるアルカリ排水及び濁水による影響は 最小限に留められていると考えられますが、今後も水質の変化を毎月監視していくこととします。

- ①工事の実施に伴う地下水位の変化、地下水流動方向に対する影響
- ②土地の造成工事による降雨時の濁水の影響、並びに コンクリート打設及び地盤改良によるアルカリ排 水の影響

〇調査項目

・地下水の水位、水質(pH、濁度など)



〇調査時期・頻度

調査は平成27年4月~平成28年3月までの期間に毎月1回行いました。

〇調査地点

・対象事業実施区域内及び地下水流動方向下流側の7地点(観測井戸4箇所、民間井戸3箇所)

〇調査結果

水位・水質調査結果は、工事前(平成25年9月以前)と概ね同程度の値で推移しており、期間を通じて大きな変化は確認されませんでした。

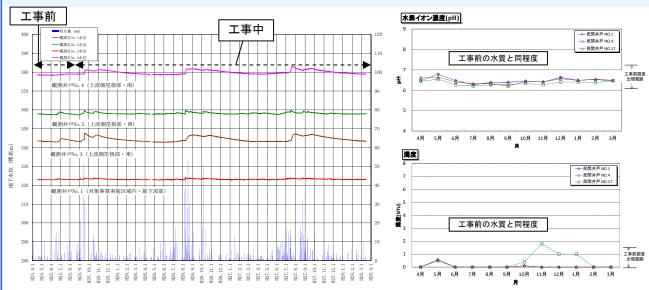


図. 観測井戸水位変動

図. 水質結果変動(民間井戸)

○事後調査の結果の検討

本事業では処分場建設工事に伴い、場内で切盛土工や地下掘削等の作業を実施していますが、本調査では地下水位に異常な変化はみられませんでした。

また、土地の造成工事による降雨時の濁水、並びにコンクリート打設及び地盤改良によるアルカリ排水の影響については、環境保全措置として仮設沈砂池設置による濁水の影響低減、アルカリ性排水の適切な処理を行っており、本調査でも地下水質の異常はみられませんでした。

以上のことから、環境保全措置は適切に実施され、事業実施による濁水の影響、並びにコンク リート打設及び地盤改良によるアルカリ排水の影響は最小限に留められているものと考えられま すが、今後も地下水位及び地下水質の変化を毎月監視していくこととします。

猛禽類(鳥類)

〇調査対象

サシバ (KM·NT、YM、TH·HG (旧 TH) つがい)、クマタカ (A つがい)

その他確認される希少猛禽類や鳥類も適宜記録「サシバ

〇調査項目

・サシバ、クマタカの生息状況

〇調査時期 • 頻度

調査は右図に示すように、サシバ・クマタカの 繁殖期や繁殖状況に応じて実施しました。



鳥類の調査実施状況

注) ●: 平成26年度実施 ○: 本年度実施

図.

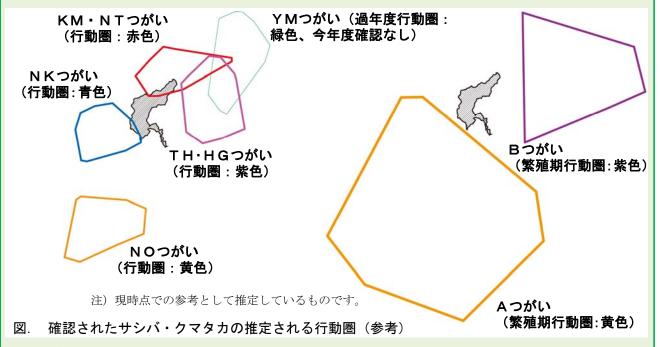
〇調査範囲

これまでに対象事業実施区域の周辺で繁殖が確認された営巣地を中心に、出現状況に応じて適 宜確認を行いました。

〇調査結果

調査の結果、サシバについては YM つがいの出現は確認されませんでしたが、KM・NT、TH・HG つ がいは繁殖活動の継続及び繁殖成功が確認されました。また、これら対象つがい以外でも、昨年 度西側で新たに確認された NK つがい、南に離れた場所の NO つがいでも繁殖成功確認されました。

また、クマタカについては A つがいの飛翔が渦年度と同様に対象事業実施区域南側で確認され たほか、北側のBつがいについては昨年度調査で確認された幼鳥(若鳥)が継続確認されました。



○事後調査の結果の検討

本調査の結果、サシバ・クマタカは工事中も継続的に確認されており、行動圏にも大きな変化 はみられていないことから、現状では本事業の実施がサシバ・クマタカの生息に著しい影響を及 ぼしている可能性は低いものと考えられます。しかし、工事の進捗状況等によりサシバやクマタ カの生息状況が変化する可能性があるため、今後も継続的な調査が必要と考えます。今後の事後 調査としては、施設供用後2年目まで同様の調査を実施する計画であり、その結果をふまえて影 響を評価していきます。

ヒキガエル

〇調査項目

・ヒキガエルの移動後の生息状況 (移動3年後)

〇調査時期・頻度

平成 28 年 2 月~3 月にかけて計 2 回の調査を実施したほか、他項目の調査時にも確認に努めました。

〇調査範囲

調査地点は工事改変区域に生息していた個体の移動先(移動地)2 箇所とし、その他対象事業 実施区域とその周辺250mの範囲で確認された個体についても記録を行いました。

〇調査結果

調査の結果、移動地における2回の調査で、延べ3個体のヒキガエルの生息が確認され、対象事業実施区域内において本種の生息環境が保たれていることが確認されました。その他、移動地以外でも本種の生息が確認されました。

また、移動地の維持管理として、土嚢袋等による補修作業を行いました。





○事後調査の結果の検討

移動3年後の調査の結果、移動地及びその周辺でヒキガエルの生息が確認されたことから、工事中も対象事業実施区域及びその周辺のヒキガエルの生息環境は維持されていると考えられ、現状では本事業が著しい影響を及ぼしている可能性は低いものと考えられます。

しかし、工事の進捗状況等によりヒキガエルの生息状況が変化する可能性があり、今後も継続的な調査の実施が必要と考えています。今後の事後調査としては、移動3年後(平成28年度実施分)、移動5年後に調査を計画しており、その結果をふまえて移動による環境保全措置の効果を検証します。

〇調査項目

エビネ、キンラン属(キンラン・ササバギンラン・ギンラン)、イナモリソウの移植後の生育 状況(移植後翌年) 移植地の状況(全天空写真)

〇調査時期 • 頻度

平成27年4~6月に3回、10月に1回の計4回の調査を 実施しました。

〇調査範囲

調査地点は工事改変区域に生育していた個体の移植先(移植地)13箇所とし、その他対象事業実施区域とその周辺250mの範囲で確認された個体についても記録を行いました。

東東東東東東南 大照の日開軌跡

〇調査結果

調査の結果、地上部の枯れ等による変動はあるものの、移植地において 61 株のエビネ、170 株のイナモリソウの生育が確認されました。なお、昨年度まで確認されていたキンラン属の生育は確認されませんでした。その他、移植地以外で 164 株のエビネ、53 株のキンラン属(キンラン、ギンラン、ササバギンラン、種不明キンラン属含む)、279 株のイナモリソウの生育が確認されました。また、移植地の維持管理として落葉落枝の除去や移植地の杭の打ち直しを行いました。







○事後調査の結果の検討

調査の結果、エビネ、イナモリソウについては移植地及びその周辺での生育が確認されたこと から、工事中も両種の生育環境は維持されていると考えられます。

キンラン属については移植地での生育が確認されませんでした。しかし、移植地以外の場所ではキンラン、ギンラン、ササバギンランともに生育が確認されていることから、対象事業実施区域及びその周辺は現在もキンラン属の生育に適した環境であると考えられます。さらに、キンラン属は地上部が枯れ落ち、根だけとなっても休眠状態となって個体が維持されるほか、必ずしも毎年地上部が伸びるとは限らないため、来年度以降に移植した個体の地上部が確認される可能性も考えられます。実際に、移植地以外の場所ではキンラン属の個体数が昨年度から大幅に増えていることが確認されました。

以上のように、対象種の生育状況は年によって変化する可能性があることから、今後も継続的 な調査の実施が必要と考えています。今後の事後調査としては、移植後毎年、5年間の調査を計 画しており、その結果をふまえて移植による環境保全措置の効果を検証します。

調査地点図①

